

青年国際交流事業の効果として考えられる主な項目

平成 24 年 7 月 9 日

共生・青年国際交流

1 外交的效果

- 事業の実施そのものが、交流対象国との友好親善の推進である。
- 相手国首脳や国民に認識され、評価・感謝されている。
- 各国の優秀な青年による親日家グループが形成され、親日的活動を行っている。
(日本のよいイメージや文化等の広報、質の高いネットワーク。)
- 事業参加後も日本青年と外国青年の友好・親善が広がり、民間外交が進む。

2 青年の育成効果

- 事業(国際交流)を通じて青年が育成される。(異文化への対応力、リーダーシップ、積極性、コミュニケーション能力、自国についてのアイデンティティー)
- 事業参加後の活動を通じて青年が成長している(企画・計画力、実行力)。
- 参加青年が実際に各国・各地で活躍している。

3 事後活動組織の価値

- 日本青年国際交流機構は、世界 57 か国の既参加青年等とネットワークを形成している。
- 日本国内、海外で、様々な社会貢献活動等が行われている。

4 その他検討すべき効果

- 参加青年以外の日本人への波及効果
 - ・ 事業実施に当たった非参加日本青年の関与
 - ・ 事後活動による波及効果
- 青年国際交流に「船」を用いる効果
- 国が実施することによる効果